

第6次小牧市総合計画まちづくりシンポジウム 開催記録

1 シンポジウムの概要

日時、場所

日時：平成20年8月24日（日）13：30～16：30（開場13：00）

場所：まなび創造館 あさひホール

開催内容

1 市長あいさつ

2 まちづくり研究会の提案発表

発表者：長谷川 泰洋

3 こどもまちづくり研究会の提案発表

発表者：市内の中学生28名

4 パネルディスカッション「協働でひろがる新たなまちづくり」

パネリスト：稲垣 喜久治（小牧市区長会連合会長）

河合 美智子（小牧市小中学校PTA連絡協議会母親委員長）

松浦 秀則（小牧商工会議所地域づくり委員会委員長）

松田 敏弘（こまき市民活動ネットワーク代表理事）

平手 優子（岩崎中学校）

岩田 直紘（味岡中学校）

大橋 拓朗（桃陵中学校）

納 文也（小牧中学校）

若原 睦実（味岡中学校）

中野 直輝（小牧市長）

コーディネーター：坂田 新（愛知文教大学長）

資料

- ・ シンポジウム資料
- ・ まちづくりシンポジウム アンケート

参加者数

約200名



2 開催記録

あいさつ（小牧市長 中野直輝）

皆さん、こんにちは。今日は少し暑さもやわらぎ、夏の疲れが出かかっているところと存じます。そのような中、シンポジウムに参加いただきまして、大変ありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。

このシンポジウムは、小牧市が策定をしている第6次小牧市総合計画のために、できるだけ幅広く市民の皆さんのご意見を聞くために開催させていただくものです。現在、実施している第5次総合計画は、平成12年から21年までの10年間の計画となっています。この10年間で世の中は大きく変わりました。したがって、できるだけ早い時期に総合計画を見直し、その時代にマッチする総合計画をつくりたいということで、1年前倒しをして策定作業に入っています。

今日のシンポジウムの副題は「協働」となっています。改めて協働ということが日本中で叫ばれています。なぜ、このようなことを言わなくてはいけなくなったのか。戦後、日本は焦土の中から、食べるのが第一ということで経済復興のため国民の水準を高め、しっかりとした技術を育てるということでやってきて、世界に類例のない復興をしました。経済的にも技術的にも世界のトップ水準まで到達しました。その後、いろいろな歪みが出てきています。戦前は同じような価値観、同じような考え方で行動していたので、改めて意見を聞かなくても考えていることは大体わかりました。しかし、戦後復興を果たすと、価値観は多様性を持つようになってきました。このような中で行政を進めていくためには、改めて市民は何を考えているのか、を把握する必要があります。また、行政の役割は何かと考えると、行政は究極の市民サービスであるので、市民の皆さんの生活に混乱が起きないように、あるいは、できるだけその意向を踏まえて仕事を行っていく、これが最大の目標になります。このようなことが重なり合い、現在の協働に繋がっています。

この協働は英語で言うと、「cooperation、(コーポレーション)」お互いが力を併せて行うという意味もありますし、「collaboration (コラボレーション)」という共に働くという意味もあります。意識も活動形態も共に力をあわせていく必要があります。価値観が多様化しているので、十分に話し合いをしなければいけない。どちらの方向にいくのかを皆の意見を聞きながら決めいかなくてはいけない。また、1万人近い外国人の方がいらっしゃいますし、少子化も大きな問題になっています。このような問題が複雑に絡み合い、その結果、犯罪も増加しています。また、災害による甚大な被害を防ぐために、防災ということが非常に大事になってきます。これらの問題を考えた時に、どのようにして対処していくか。役所だけでは何ともなりません。一人一人の市民の皆さんの力がまとめれば、大きな力となります。そのために、コラボレーション、お互いに協力しましょう、ということが重要となります。

このような主旨をお互いに認識しながら、今日のシンポジウムが成功裏に終わることを心からお願いし、ご参加いただきたいと思います。また、今日は中学生の皆さんも参加しています。中学生の皆さんに恥じない大人として頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



まちづくり研究会 提案概要の説明

まちづくり研究会 長谷川氏より研究会の提案の概要を発表。



こどもまちづくり研究会 提案発表

こどもまちづくり研究会に参加した中学2年生29名(当日は1名欠席)により研究会の提案の概要を発表。



パネルディスカッション ～協働でひろがる新たなまちづくり～

坂田

小牧市パネルディスカッションを始めたいと思います。これから長時間になりますので、発言は座ったままで失礼します。

まちづくりということは、人が生きていく上で、一人一人の安心・安全から始まり、道路の問題、環境の問題、企業の問題、農業の問題など市民生活の問題が全て関わってきます。大変大きな話になってくるわけ

です。現在、そのまちづくりのための最高の指針としての第6次総合計画を検討する審議会が組織され、市長への答申のための原案を今、一人一人が汗水たらして議論して下さっています。中間答申が出来上がる見通しになってはいますが、幸いにも多くの問題点については、まちづくり研究会が早くからの確かな分析研究を行い、しかも、多くの問題については解決策まで踏み込みこんで提案してくれました。ここで改めて感謝の意を示したいと思います。

今日は、こどもまちづくり研究会からも多くの提案をいただきました。こどもまちづくり研究会の「こども」という言葉は要らないではないかと思いました。中学生の諸君をなめてかかってはいけなしいと思いました。一つ一つが絵に描いた餅のような話は一つもない。すべて切実に聞かせていただきました。大変有益な意見を多くいただきました。

さて、現在検討中の第6次総合計画は行政の計画としては最高の計画として位置づけられるもので、今後の小牧市ではこの総合計画に基づき事業が行われます。そのため、重要な意味を持ちますが、これまでの第5次とは違い、できるだけ多くの場面で市民の意見を聞き、それを反映させたいと思っています。総合計画そのものは、小牧市長から審議会の委員が委嘱を受け、答申するという形で出すものです。市長は、市の長ですから、行政のできる範囲内の提案が普通だと思います。今回の第6次総合計画では、1つ大きく踏み込んだ点があります。それは、今日のシンポジウムのサブタイトルにもある「協働」ということです。この協働というのは、今後の小牧市のあり方として、単に行政がやるということだけでなく、一人ずつの市民、企業、各団体が行政と共に働くということです。これは、もう少し平たく言うと市役所と市民が互いに約束し合ってやっていきましょう、ということです。市民も行政に単に文句を言って終わるのではなく、市民も責任・役割を分担し、行政と市民が手を取り合っていく、市民には企業、団体も含んでですが、より良い小牧市をつくっていくという意味で、協働という言葉キーワードにしています。その辺を中心に今日のパネルディスカッションを進めていきたいと考えています。

それでは、始めに、パネルディスカッションに参加をいただいた方の自己紹介をお願いします。



- 稲垣 小牧市の東部で、田園と丘陵の多い緑豊かな大草東区の区長で、区長会の会長を兼ねている稲垣です。今回の総合計画の策定では、第1部会に所属し、主に地域コミュニティ、市民協働、ごみ対策、環境対策、行政経営全般にわたり審議させていただきました。いずれも市民と行政の協働の部分で一生懸命審議しました。よろしくをお願いします。
- 大橋 桃陵中学校の大橋です。こどもまちづくり研究会では交通問題について話し合いました。よろしくをお願いします。
- 納 小牧中の納です。学校ではサッカーをしています。その他にあいさつ運動などのボランティア活動にも参加しています。今回参加したのは、たくさんの中学校から集まったいろいろな考え方を持つ人と小牧市について話し合ってみたからです。今回のこどもまちづくり研究会では環境について話し合いました。小牧市のビジョンをより良いものにしようと話し合いました。そうした僕たちの話し合いでの意見が今後の小牧市に役立つと嬉しいです。
- 若原 味岡中学校の若原です。私はEグループで環境について話し合いました。参加したきっかけは、生徒会に入っていたこともあり、先生に勧められたというのが正直な所です。しかし私自身、未来の小牧市に対する理想や意見があったし、何より自分たちの意見で未来の小牧市が変わるかもしれないということが面白そうだと思って参加しました。よろしくをお願いします。
- 松田 こまき市民活動ネットワークの代表理事を務めている松浦です。私どものこまき市民活動ネットワークは設立にあたり、協働の中でできた団体です。多くの市民の皆さんの協力も含め、特に、商工会議所、青年会議所の皆さんにもお世話になりました。地元の中学生の方の話では、まだまだ認識不足の所もあるようですが、我々も十分に理解いただけるよう活動を進めていきたいと思えます。
- こまき市民活動ネットワークの紹介をさせていただきますと、設立して3年たちました。3年の間に小牧市市民活動センターの仕事を受託させていただいています。現在、市民会館の4階に事務所を置き、運営しています。今、会員の方として224の企業・団体・個人の方に名前を連ねてもらっていますが、まだまだ不足しています。今、小牧市の中には2,000くらいの市民活動団体が活動していると聞いています。そういった方との協働のもとに市、行政、企業の三者が協働できて、より良い小牧市づくりに努めたいのでよろしくをお願いします。
- 松浦 小牧商工会議所の中で地域づくり委員会があり、その委員長をしている松浦です。よろしくをお願いします。
- 河合 小牧市小中学校PTA連絡協議会の母親委員長で、岩崎中学校のPTA母親代表をしている河合です。小牧市内小中学校25校のPTA母親代表のまとめ役をやらせていただいています。今日は、子どもを持つ母親の立場から意見を述べさせていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。
- 岩田 味岡中の岩田です。ジュニア奉仕団にも所属しています。Bグループで中心市街地活性化について話し合いました。よろしくをお願いします。

平手 岩崎中の平手です。学校ではジュニア奉仕団の活動をしています。こどもまちづくり研究会では、子どもから大人まで安心して暮らせるまちづくりについて話し合いました。よろしくお願いします。

坂田 順番ですので市長にも自己紹介していただき、引き続き、今回の主要なテーマになっている協働によるまちづくりについて、これまでの動き、現状について、市長からお話をいただきたいと思います。

市長 市長の中野です。今日は、まちづくり研究会の皆さん、こどもまちづくり研究会の中学生の皆さんからユニークな意見をありがとうございました。

今までの市の協働についての考え方ですが、私が市長になった14年くらい前は、市民参加がよく言われていました。なぜ、市民参加ということが言われたかという、役所任せでやってきた結果、やりすぎや無駄が多いという指摘が日本中でありました。その時に、行政の政策決定に市民の声も参考にしなくてはいけないということが15年ほど前から強く叫ばれるようになりました。以来、それと連動して、情報公開、説明責任が社会全般で言われております。まず、市民に正確な情報がないと的確な意見が出せない、ということで、最初に情報公開が進められました。小牧市でも私が市長になる前から情報公開条例があります。その後、情報公開だけではわからない、なぜ、そのようなことをやっているのか説明をして下さい、ということで、説明責任が出てきました。説明を聞いた上で、政策の良し悪しを判断することになりました。そのような情報公開と説明責任を果たすことによって、政策を判断するということになりました。それが進化して、市民は言いつ放しでよいのかということになるわけです。当然、行政は税収をベースに運営しており、自ずと限界があります。そうすると、税金を使うのならば市民の意向に沿うものでやるというのがベターな判断となります。このような過程の中、政策の決定面からですが、お金に限界があるのならば、市民の側にも義務というものが出てくるのではないかと、ということです。義務という言葉はきつい言葉かもしれませんが、やはり、すべての面で、税金さえ払っていればよいということではありません。自ずと限界がありますから、そこで良いまちづくりをしようと思えば、市民の皆さんの知恵と力が必要だと、こういう大きな流れだと認識しています。

その結果、近頃は特に地域力ということが言われており、市民の方もいろいろやられているわけです。このような時代背景の中、市民活動推進のためのいろいろな行政的な支援をしていただきたいという意見が、小牧青年会議所や商工会議所から5年ほど前に出されました。それは大変結構なことです。まず、そのために条例をつくらうということで、市民活動推進条例をつくっています。それに基づき、市民活動団体が活動しやすいように、そのオフィスを提供しておりますし、優れた市民活動を実施していただいた団体には、わずかではありますが、資金的な補助もさせていただきます。これから、一層、そのような分野が進んでいくと思います。

先ほど、小牧市は治安が悪いとありました。今は、沈静化しそれほど悪いということもありませんが、そういうことになると警察も250人しかいないわけです

から、これほど広い地域を警察に任せておいても無理な話です。地域で自主防犯運動をしていただいて、地域の皆で守ろうとしていただく。家には防犯用のシールを貼っていただいて活動をしていただく。今は最悪の時期を脱し、犯罪の数は半分くらいになっています。それと、少子化が進み、共働きの家庭が大変増えてきているということです。学校の通学路の安全や子どもしかいない家庭の安全のために、小学校3年生くらいまでは、放課後、学校で子どもを預かりましょうということのためにも、いろいろな市民の皆さんの力を貸していただいて、地域の皆さんの力でやってもらっています。高齢者の問題もそうです。介護保険がありますが、介護保険で全てができたら大間違いです。そうすると、地域の皆さんの力を借りてやっていかないとできません。

ある意味で非常に豊かになりましたが、しかし、課題も出てきました。先ほどもごみ問題の話も出ましたが、私どもの子どもの頃はごみはなかった。新聞紙などはお風呂の炊きつけにしたり、プラスチックのトレイもなかった。余るのがなく、ごみがなかった。今は違います。レジ袋はあるし、いろいろなトレイはあるし、新型のごみが出てきています。それが一番大きな問題になっています。また、食べ物も贅沢になってきて、きれいじゃなければ捨ててしまうという時代になっています。こうして社会が発達するとごみの問題が多くなってきました。

このようなことは大人の皆さんにとっては常識でありますから、中学生の皆さんに是非、こういう社会とともに変化する様々な課題が出てくる、ということを知っていただきたいと思い、参考までに話させていただきました。

市の取組みとしては、先ほどご紹介したとおりです。これからは日本の経済は頭打ちの状況です。高度経済成長の時代は終わりました。リッチな時代は終わりました。世界中でしのぎを削り経済競争をしています。税金が以前のように順調に伸びず、むしろ借金まみれという状況です。こういう中で財政力のない中でどうしたら皆が楽しい人生を送れるか。そのためには、役所には限界があり、市民の皆さんの力を貸して下さい。そのためには、どうしたら気持ちよく力を貸してもらえるか、このようなことを研究していかなくてはいけないという時代です。今日は、そのために協働ということを中心にシンポジウムを開いていただきまして、これからの総合計画に皆さんのご意見を多めに反映させていただきたいと考えています。

坂田 ありがとうございます。今日の中心の課題であります、協働という点では、現在進めています総合計画審議会の中でも、いくつか、新しい取組みを行っています。総合計画の審議会に先立って、行政に関わっておられる皆さんと市民とで協働でまちづくり研究会をおつくりいただき、先ほども発表をしていただきました。そのまちづくり研究会にも参加されたこまき市民活動ネットワークの松田さんから、参加されてのお話をいただきたいと思います。

松田 このまちづくり研究会に参加しましたが、その前に市長を囲んで懇談会が市内の4会場で行われ、参加をさせていただきました。市民の意見を反映させて、これから先10年の小牧市がどうあるべきか、という意見を言う機会が与えられて、本当

によい機会だと思い参加しました。しかし、その時の会場についても少し不満もあります。というのも、市民の意識が薄い。小牧市は財政が豊かというイメージが市民にはあると思います。大きな問題がなければ小牧は何とか推移していきたくらう、という思いが皆さんの中にも多分あると思います。もちろん、現状としては、財政が厳しいということではないのですが、市民が自分のまちをどうつくるのか、どうしたいのか、ということ、言葉できっちりと語っていくべきではないかと感じています。それが、小牧をよくする第一歩だと思えますし、この先 10 年、ここで意見を出さなければ、ずっと決まったまま、大きな反省はあるでしょうが、我々の意見を反映させる機会が少なくなってしまう。後で文句を言うのではなく、意見を言える時に、意見を言うという市民の義務を是非果たしていきたいと思えます。

市民活動についても、団塊の世代の方々のお力を借りて、協働の中で市がやることを市民活動が代理でできることがあれば、市民活動として活動していきたい。そういう意味では、是非、団塊の世代の皆さんに地域デビューして、お力を貸していただきたいと思えます。どうぞ、よろしくをお願いします。

坂田 ありがとうございます。市民活動がしばしば見放されがちであったというのは、権利ばかり主張して義務を果たしてこなかった、という所に関りがあったのだと思います。そのようなことで、こまき市民活動ネットワークの松田さんから市民の義務という言葉が出たのは、大変重要なことだろうと思えます。

やがて、5 年経つと大人の小牧市民となる中学生の諸君もパネリストとして参加してもらっています。こどもまちづくり研究会の若原さん、大橋くん、研究会に参加しての感想をお聞かせ下さい。

若原 私が参加して感じたのは、始めは何を話してよいのかわからなかったし、未来の小牧市をつくるといっても、あまり実感が湧きませんでした。しかし、実際に参加して、提案したり、自分の意見を言ったりしながら、やっと自分達がこれからの小牧市をつくっていくのだ、ということが体感することができました。グループの話し合いの中でも、始めは緊張した雰囲気で行うのかと、少し心配しましたが、グループの仲間はとても明るく、常に和気あいあいと明るい雰囲気の中で話し合うことができました。その中で自分の意見や感想も言うことができ、話し合いを進めることができました。お互いの意見を大切にしながら、話し合いを進め、結論を出した時には達成感がありました。私の意見が今後の小牧市について役立ったかどうかは実際にはわかりませんが、自分の意見で小牧が変わるような、そのようなまちづくりに貢献できて良かったです。

大橋 僕は、地域や社会は大人たちがつくっていくものと思っていました。しかし、僕が総合計画に参加できると聞いた時はとても嬉しかったです。1 回目のこどもまちづくり研究会が始まる前は、どんなテーマのグループに入るのかわからなかったし、意見を準備していても、希望と違うグループだったら、意見を述べられるのだろうか不安でした。希望とは違うグループになりましたが、各グループに一人市役所の方が付いてくれて、進行の仕方も最初に説明してくれたので、意見が出しや

すかったです。僕は少しでも多くの中学生の意見を取り入れるため、クラスの皆からアンケートを取ってそれを参考に参加しました。こどもまちづくり研究会は子ども側の視点で小牧を見て、問題点や理想、解決策を提案できるし、市内の全中学校の人と話し合いをすることで、別の考え方や他の地域の問題点を話し合い、まとめて発表でき、小牧全体の改善に役立つと思うので大切だと思いました。

坂田 大橋君は元々何のグループでやりたかったのですか。

大橋 元々は、外国人の担当のグループに入りたかったのですが、人数が少なくてなくなってしまったので、交通問題改善グループになりました。

坂田 わかりました。いろいろな方法がありますので、是非、また意見を発表して下さい。

今日は、子どもさんを持つお母さんの立場から、PTA連絡協議会から母親委員長の河合さんにもご参加してもらっています。今回のこどもまちづくり研究会についてのご感想などをお聞かせ下さい。

河合 第6次小牧市総合計画の策定にあたって、こどもまちづくり研究会を立ち上げたのはすごく良かったと思います。行政や大人の考えで進行してきたのが今までだったと思います。参加した子たちはすごく難しいことをやっていますよね。私がこの位の子どもの頃は何も考えず、部活をやっていたような気がします。今の子たちは、いろいろなことを吸収して体験をして経験してすごく良いことを身に付けているのではないかと感じています。この感じた経験を大人になって活かせればよいと思います。先ほど、私の意見が反映されるかどうかかわからないけれども、と言っていました。反映できればすごく嬉しいと思います。また、せっかく違う学校の子と集まって友達になれたことですし、このような機会をもっと設けるのが良いことだと思います。今回のテーマの協働にも繋がると思います。

坂田 ありがとうございます。河合さんからPTA連合会の母親委員会という立場からの意見をいただきました。

私たちの社会では、長い間、個というものは無視して、全体の大きな目標のために場合によって、個は犠牲になるという考え方でしたが、近代社会ではそれを否定し、一人一人が大事なのだと言い出した。ところが現実には行政の法律等を考えた時でも、組織がないと法律の運用ができない。様々な形でいろいろな組織があるわけですが、例えば、小牧市では区という単位でコミュニティができています。これがどのような形でどのように活かされていくのか。その辺りを区長会連合会の稲垣さんよりお話いただきたいと思います。

稲垣 小牧市の現況についてお話すると、市内には125区あります。125人の区長が委嘱され、地域で活動をされています。しかし、その活動は画一ではなく、おおよそ次のような行事が行われています。3月、4月には区の総会があり、役員と年間行事計画が決められます。役員には、区長と副区長、総務、書記、会計、衛生、交通安全、環境、文化、体育などの役員が決められます。役割が決まると、行政と関わるようになります。活動は春の大掃除から始まり、クリーンキャンペーン、防災訓

練、盆踊り大会、敬老会、秋まつり、交通安全対策、スポーツ大会等の地域住民に密着した新しい行事が、また昔からある伝統的な行事が行われ、広い年齢層で交流が図られます。この他に3あい事業、これは、「ふれあい、支えあい、学びあい」のキャッチフレーズで3世代に呼びかけています。その行事とは、薬草園、自然休養村等の社会見学会や夏休みラジオ体操、議会傍聴、作品展、芸能発表会、ウォークラリー、映画会、音楽会などが計画されています。その他に、防犯パトロール隊が結成され、小学生の下校時に迎えにいくとか、地域内のパトロールをしています。防災チームは、防災のPRをやっています。総まとめとして月1回地域だよりを発行して、行事の案内や地区内の会社訪問、健康管理、地域内の苦情、訃報などを載せています。

今後の課題としては、3あい事業の実施区数は現在市内55地区ですが、全区において実施していきたいと考えています。これは、少子高齢化が進む社会において、3世代を対象にした活動が必要と考えているからです。また、地域の安全、子どもの安全を考えた時、防犯パトロールを結成していただいて、地域の安全を図っていただきたい。そのためには、現在の40団体から125区全区に広げていきたいと考えています。最後に、一番大きな問題は、地域の旗振りである区長が1年で交代する地域が結構多いのですが、地域の安全安心、住みよいまちづくりを構築するためには、区長の任期は最低2年にしてほしい、地域の改革をお願いするものです。活動報告、現状と課題についての報告は以上です。

坂田

ありがとうございました。今の区長の任期の問題も関係機関で議論してほしいと思います。3あい事業、ふれあい、支えあい、学びあいについてご紹介いただきました。また、地域が主となってやっている防犯パトロールについてもご紹介いただきました。

子どもを育てるといのは、大人の役目が不可欠だと思います。今、区長会の立場からのお話をいただいておりますが、地域の教育力、地域で育てる子どもという風に最近言われています。河合さん、その辺いかがでしょうか。

河合

地域における教育や子育てと言われると、私が真っ先に思い浮かべるのですが、私の幼い頃、登下校には近所のおじさんやおばさんが「おはよう!」「お帰り!」と声を掛けてくれました。自然のあいさつが、今はどうかと思います。昔は、自然にあいさつしていました。私の方も言われるとあいさつを返します。そういうことの繰り返しで、良いことも悪いことも怒られたりすることもいろいろありました。こうしたことが親だけでなく、近所の人に言われることで、やらなくてはならないという気持ちにもなりました。ですので、3あい運動は大切だと思います。

教育に関しては、学校の役員をやっていますが、授業参観の参加者が少なくなっています。家庭の事情や共働きで、来るのは大変かもしれませんが、子どもに目をかけ、声をかけ、手をかけてほしいと思います。心がけがすごく大事だと思います。ちょっと大きくなってくるとお金だけ与えている方もいますが、どうかと思います。そういう中で学校や行政についても、様々な取組みや支援をしていただいて感

謝していますが、子どもは自分の親の背中を見て育つという言葉もあるとおり、親の責任、意識を心から感じる支援をしていただきたいと思います。そういうことをしていくと、大人が胸を張って子どもたちに模範を示せるような生き方をしていかなければならないと思います。

坂田 ありがとうございます。先ほどのこどもまちづくり研究会の発表の中でも、大人がちゃんとあいさつをなさい、という指摘がありました。

まちづくりのための協働では、小牧市には企業が多くあり、小牧市の中でも存在感が大きいわけです。これを無視してまちづくりもないし協働もない。そういう意味で、今日は商工会議所の松浦さんに来ていただいていますので、松浦さんからご意見を伺いたいと思います。

松浦 小牧商工会議所は商工業者の集まりですので、どうやって市に協力していったらよいかということ、常に課題として持っています。まちづくりの観点からこの3年、5年で取組みたいことが3つあります。1つ目は中心市街地活性化。2つ目は東部の工業団地、農業公園等の開発をしたい。3つ目はどこへも自由に行ける交通網づくりです。この3つを協力していきたいと思っています。

経済や文化の発展には、より多くの人の動きが必要となってきます。人が動くということがまちづくりのポイントだと思います。中心市街地については、今まで駐車場としておいて、いろいろ計画を練ってきたのですから、実行する時だと思います。そこで、まちづくりの文化の中心として、私が勝手に考えたものですが「クリエイトセンター」の設置を希望します。それは、従来は図書館と呼ばれたものですが、図書館ですと、どうも学生、学者が勉強する所との静かなイメージが伴います。ここでは、老若男女が集い、様々な文化活動ができ、何か新しいものを創り出す場所、クリエイトする場所にしたいです。特に、昨年より「産、官、学」の提携が進み、3つの力がより集まった創造の場づくりということで、クリエイトセンターのような建物をつくって、発展させていきたいと思っています。

2つ目の東部地区の開発は、2つの工業団地の進展があり、工業都市としての小牧としてはこれの推進をしていくことを希望しています。また、工業団地が地域の発展と環境保護を考えたものをお願いしたいと思っています。更に、商工業者も農業に関心を持ち、農業の経営化、食糧への関心を深めなければならない時代ではないかと考えています。そのような観点から、農業公園も検討されています。そこでは従来のテーマパーク的な発想ではなく、「食」の研究、開発、教育など商業と農業と教育が絡んだものを、時代に先駆けてつくっていくことに協力したいと思います。

3番目は、小牧市内のピーチライナーは残念ながら、平成18年9月で廃止されました。そのあと、小牧市の取組みで市内巡回バスが充実してきました。現在8両のバスで1日平日1,000人ほどの利用があります。いくら施設をつくった所でそこへ行く足がなければ、行くことはできません。環境保護の観点からすると、皆が、自家用車で動くのではなく、乗合式の運賃の安い移動手段を考えていくべきと思い

ます。それが電気バスやバイオ燃料や太陽光で動けばベストだと考えています。

いずれにしても、「人がより多く動く」ということから始めて経済や文化は発展していくと思います。その仕組みづくりを市と企業と協力して取り組んでいきたいと考えています。今までとは違った新しい展開をやっていく必要があるので、未来を見据えた果敢な挑戦が必要であり、商工会議所の枠を超えて取り組んでいきたいと考えています。

坂田 ありがとうございます。中心市街地の活性化ということは、この地域では大きな問題であります。この問題は多分、先ほど稲垣さんから話された自治会組織が組織としてまとまりにくくなっていることと関係があると思います。大きな背景には、日本全体で人口減少や少子高齢化に関係があると思います。表面上、小牧市では人口減少は切実な問題ではないように見えるのですが、地域を限ってみれば明らかに少子高齢化という所が出てきています。それが、様々な組織が成り立ちにくくなっている、中心市街地で跡継ぎがいなくなっている、という問題として出てきていると思います。

別の見方をすれば、日本の人口の中で最も大きなグループの世代の1つである団塊の世代が、少しずつ暇になってきている時期でもあります。団塊の世代にいろいろな活動にどう加わってもらおうかというのが大きな課題だと思います。松田さん、その辺りについてどういった形で参加していただけるのか、お願いします。

松田 こまき市民活動ネットワークは中間支援という仕事をしています。中間支援というのは、皆さんにメンバーとして入っていただいて、市から受けた仕事をお手伝いいただくという、いわばコーディネーターのような仕事です。最近では企画力不足やマンパワー不足という状況があります。団塊の世代の方に期待しているのは、企業の中で活躍された方が市民活動の中で、もう一度元気に活躍していただきたいということです。協働というのは、市民活動のために与えられた言葉だと思います。協働には、共働と両方ありますが、最近では、協働に意識を持っていただけになったと思います。行政としてはやりにくい、企業としてもやりにくい、そういうことを市民活動が担っていくという時代になってきたと思います。そのためには、大人のボランティアがまだまだ認知されていないと感じています。20代の方にも参加いただきたいのですが、仕事が忙しくなかなか参加していただけない。そういう意味では、団塊の世代の方々に是非ご協力をいただきたいと思います。団塊の世代の方々をターゲットとしているのは、もう一つ理由があります。定年退職されて、毎日が日曜日のような生活をされますと、当然、認知症も来ますし、身体も弱ってきます。そういう意味でいくと、やはり何かの想いや情熱、使命を持って何かに取り組むことで元気になります。活力のある生活を送っていただけるとと思います。そうすると、市としても医療保険の支払いが低減できるのではないかとことも思ったりします。

来年の秋ごろに小牧市で織田信長サミットというイベントの開催が計画されています。私たちも市民活動団体として少し関わらせていただきたいと考えています。

社会にしても行政にしても、今、織田信長のような強烈なリーダーシップが必要とも思います。この地に織田信長が19歳から4年間、小牧市にいたという史実がはっきりしたと聞いています。そのような中で、小牧のまちづくりにも当時のものが大きく影響しているのではないかと考えます。そのようなことにも、市民活動として参加させていただきながら、何か私たちをわくわく、ドキドキさせていただければよいと期待しています。

最近では、CSRということで、企業の方が社会貢献という名目の元で、単なる企業利益を追求するのではなく、社会にいかに関与するかということが言われています。当然、そのためには市民活動との連携を大きく協働ということが大きく言われるようになりました。それで昨年、今年と、ある企業の新入社員教育のお手伝いをさせていただきました。このようなことも市民活動としてやっていきたいことであり、やっていけることではないかと考えています。そのためにもボランティアの皆さんの協力をいただきたいと思います。

もう一つは、最近では有償ボランティアという言葉が一般的になってきました。ボランティアは無料ということではなく、交通費とか昼食代くらいはいただけるような有償ボランティアとして、継続的にボランティアいただくためには、全くの手弁当ではなく、少しはお金をいただけるような状況で、ボランティアを継続的にできる状況づくりをしていくべきと考えています。より多くの皆さんの参加をいただきまして、行政、企業との連携の中で、協働の中でよりよいまちづくりを実現するために活動していきたいと思っています。

坂田 ありがとうございます。一通り今日のパネリストの方々に、協働について将来どういう方向へ進んでいきたいのかお話ししていただきました。同時に現時点での問題点も語っていただいたことになりました。これまでのところで市長から感想をお願いします。

市長 いろいろな話をありがとうございます。まさに、そのとおりでありまして、その時代のテーマがあり、それだけ必要性があり、言っているわけで、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。

区長の話聞いて、そんなに役割があるのかと思いました。稲垣さんは立派な区長さんでありそこまでできるものであり、これを全ての区長さんにやらしたら地域が崩壊するかもしれない。区長さんの成り手がなくなる、こういう可能性もあると思いました。区の事情もありますが、区の皆さんで手分けをしてやらなくては成り立たないと思います。どういうことかと言いますと、実は区によってはくじ引きで区長を決めている所もあります。区長の成り手がいない、くじ引きで決めてもそれほど大きな問題がない、そういう事情もあると思います。桃花台地区の方には叱られるかもしれませんが。桃花台はきれいに整備されています。祭りは桃花台全体で大きな祭りがあり、日常的な行事は同じような方が集まっているので、やりやすいという地区もあります。地域によって様々な問題があり、臨機応変に取り組んでいただきたいと思います。我々としては、地元の話になると、何もかも区長さんにお

願いするということもあり、区長は大変な仕事だと思います。区長は市と地元の板ばさみになりご苦労されることもあります。そのようなことを考えると、任期は2年くらいが一番良いとは思いますが、これは理想だと思います。現状としては、まず副区長を先行して2年やって、次に区長を2年やってそれが終わったら、あと2年顧問と通算6年やることになります。できれば2年がありがたいとは思いますが、難しい問題だと思います。区長さんがしっかり活動してもらえれば、良い地域になることは間違いありません。

中学生の皆さんもこのような機会に参加して参考になったという意見がありました。ある日突然、成人して政治に参加するのではなく、二十歳になる前に、行政とは政治とはこんなものかということ、14、5歳のうちから参加していくのも良いと思います。中学生の皆さんからいろいろ意見をいただきまして、よかったと思います。ただ、環境の問題で、1つだけ考えて欲しいことがあります。それはごみ箱の問題です。ごみ箱は小牧市はつくらない方向にあります。ごみ箱をつくると、ごみが集まってきて、收拾がつかなくなります。本来自分で出したごみは自分で持ち帰る。自分で分別して捨てる。そうしないとごみ箱の周辺はごみで一杯になり、ごみを集める人を置かなくてはいけない、収集車で回収しなければいけない。お金もかかります。だから、市の方針としては、ごみ箱を置かない、持って帰ってもらいましょう、そのことによって、市民の皆さんに環境に対する意識を高めていただきましょうという作戦です。しかし、おっしゃるとおり、ごみのポイ捨てはいっぱいあります。それをどうしていこうかという問題もあります。

それからもう一つ、中学生の力で条例になったものがあります。応時中学で中学生の皆さんが地元の清掃ボランティアでわかったことは、大きさは小さいが一番多いのはタバコの吸い殻。二十歳を過ぎると行儀悪くタバコを吸い、そういうのを放っておいてはいけないということでお叱りを受けました。言うとおりでと思い、何とか検討してみようということになって、来年には、市の中心市街地の一部に喫煙防止の地区をつくります。人間ですから、何が気持ちよくて何が気持ち悪いなどということは、中学生でも小学生も言わなくてもわかっていることです。ですから、そういった意見を積極的に行政は取り入れることが大事だと思っています。

親の背中を見て子どもは育つと言いますが、まさにそのとおりだと思います。実は今一番欠けているものは何かというと学校教育ではなく、家庭教育です。家庭でもっと教育して下さい。昔は子どもが悪いことをしたら、親はたたいてでも子どもにぶつかっていった。だから、子どもがどんなにわんぱくでもとんでもないことはしなかった。今は、学校でも以前よりも沢山のことを教えている。でもそういういろいろな事が起きる。本当の責任は親。そういうことも考えて欲しい。また、協働の分野で言うのなら、親が子どもの教育をするのが協働の精神だと思います。

それから、商工会議所の松浦さんが言われた主旨はよく理解をしています。小牧市は財政力に恵まれていて、企業の力が大きいと思います。企業も税金を払うだけでなく社会貢献してもらえればと思います。例えば中学生の皆さんが東南アジアの

方に夏の間ボランティアとして派遣されています。その他もろもろの分野で企業の支援があるわけです。

今日、中学生の皆さんのストレートな話を聞かせていただき、まさにそれができたら素晴らしいなあと思う1人です。私も団塊の世代の一つ二つ上ですが、団塊の方々の力を借りて進めていきたいと思います。ありがとうございました。

坂田 ありがとうございました。まだ意見を伺っていない、子どもまちづくり研究会の平手さん、納くん、岩田くんの順に感想を聞かせて下さい。

平手 私はジュニア奉仕団の活動で、お年寄りへの愛のレター書きや清掃活動などを行っています。このような活動はお年寄りと関わりを持ったり、町をきれいにするための活動として、私たちジュニア奉仕団で行っています。施設訪問では、とても楽しそうに話をしてくださったり、その方へ手紙を送ると他の手紙より何倍も嬉しく読んで下さるそうで、とても書き甲斐があります。清掃活動では、先ほどもあったように特にタバコの吸殻が多いです。他にもいろいろなものがあって大変ですが、達成感があるのでやりがいがあります。このような活動を広めていくために、もっと沢山のボランティアが必要だと思います。そのために、小学生の頃から参加することが大切だと思います。例えば、愛のレター書きなどは、小学生でもできる簡単なことですが、とても気持ちが伝わります。ですので、大人も子どもと一緒に協力して、沢山の人が自分のできることから少しずつボランティアに参加していくことが大切だと思いました。

納 研究会をきっかけに、僕は小牧市の良い所、悪い所について考えてみました。小牧市の良い所は、他の市より全体的に緑が多い所です。小牧市役所の近くには小牧山という市の名前がついた山があり、大きなビルなども目立たないし、全体的にきれいな感じがします。また学校を始め一般の方々と一緒にやるボランティア活動があるのも良い所だと思います。他にも大都市という感じでもなく、田舎すぎというわけでもない中間くらいの所も良い所だと思います。お互いの短所を消しあって長所だけが残るからです。

しかし、どんな市町村でも完璧な所はありません。小牧市にも悪い所があります。僕が気になるのは、小牧市は元々田んぼが多い所ですが、僕の地域では年々減ってきています。僕が引っ越してきた当初は、夏はカエルの声で眠れなかったのですが、今では全くなくなってしまいました。最初は嬉しかったのですが、今は寂しく思っています。このように小牧市の良い所がだんだんなくなっていることが、いけない所だと思います。

今後、小牧市は良い所を伸ばし、悪い点を一つ一つ解決していけばよいと思います。良い所は今以上に、更に新しいことに挑戦していけば、もっともっとよい方向に行くと思います。

岩田 小牧は緑も多いし、若い人も多いのでこれを活かして中心市街地も発展して欲しいと思いました。そのために自分たちができることは、ポイ捨てをなくしたり、更にボランティア活動をしていくことだと思います。また、僕たち以外にも、大人は

広い目線を持っていると思うので、自分たちができないことを協力して欲しいと思いました。

坂田 ありがとうございます。人の世界が変化するのは当たり前で、人が歳をとっていくのと同様、自然なことです。しかし、まちづくりの場合は、できることなら、良い所が増え、良くない所が減っていくという変化をさせたい。こどもまちづくり研究会の子どもたちが将来、小牧に住んでよかったと言えるような町になればよいと思います。それは言葉だけで言えば、「魅力ある小牧をつくる」となりますが、地域もいろいろ変遷していきますし、自治会を始め、小牧市の基盤となる組織が、いろいろな問題を抱えていると思います。その辺りを稲垣さんからお話をお願いします。

稲垣 子どもと地域がどう関るかということ、今、地域では子ども会が小学生を対象としてあります。盆踊りとか秋祭りのときには協力してくれています。しかし、中学生になると、部活動や勉強が忙しくなるのに加え、関りが持てるものがありません。そこで、授業の一環として農作業などが一部の学校で取り入れられています。中学校の文化祭では地域の人も参加しています。小学校に比べると関係が少ないと思います。このような地域との関係づくりが、犯罪の抑止にも繋がると思います。

また、中学生くらいになると、両親とコミュニケーションも取れていないのではないのでしょうか。年齢的にも友達と話をするけれども、親と話をしたくない。ですから、このような所に地域の活動として溝を埋められる役目ができればと思います。昔は青年団があり、中学生になると青年団に入り、村祭りでも一緒に準備しました。春と夏には町内の役員の家で食事をして親睦を図っていました。今はこのようなことはなかなかできない。しかし、嬉しいことに、中学生の奉仕団が活発であるということなので、今後はそのような活動と自治会と接点を持ち、地域と中学生の関りを持っていきたいと思います。そうすると、自治会も子どもたちが大きくなってきた時に、自治会の加入率も上がってくるのではないかと思います。

坂田 ありがとうございます。自治会の活性化と小・中学生の参加ということでしたが、地域の活性化はまちづくり研究会でも取り上げられていました。中心市街地の活性化もそうだと思います。松浦さん、その辺りのお話をお願いします。

松浦 発表の中でも大人のボランティアをやって欲しいとありましたが、実は大人もボランティアをやっています。商工会議所でもやっています。ボランティアは、行動でやる場合とお金でやる場合と心でやる場合とあります。例えば市民まつりでは、小牧市の企業が協賛という形でお金によるボランティア参加をしています。企業も儲けなくてはいけないという時代から、地域で生き残っていくためには、地域に貢献しなくてはいけない時代になってきています。社会貢献ができてはじめて利益に繋がるとい時代です。企業活動もボランティア活動に近い意識を持って取り組んでいく必要があると考えています。

また、中心市街地や緑に関するのですが、一度緑を失ってしまうと、元に戻すことは大変難しいことになるので、全体の調和を考えて、中心市街地の活性化を考

える必要があります。持続的発展ができるように考えていく必要があります。今日の新聞にもありましたが、社会的には中心市街地の利用に税制で優遇措置をする方向性にもあります。郊外へと伸びるのではなく、まちなかに集まるコンパクトシティという方向性で税制優遇ということらしいです。そういうことを考えると、環境保護・保全是1企業ではできない問題です。そこで、取組みに対して補助的な市の制度をつくってでも持続的な中心市街地をつくれればよいと思います。

市長 ありがとうございます。都市景観は環境とマッチするという事なので、十分に配慮して進めていきたいと考えています。しかし、土地の持ち主が個人の方なので強権的にやることは難しいことです。しかし、方向性としては、市としてもそちらにあります。実は、道路整備のために用地買収した所があり、小牧山までの沿線でもまちづくり協議会を結成してもらい、緑地や景観に配慮した建物には市が一部を助成することをやっています。中心市街地で同じような対応が取れるかという、難しい面もありますが、配慮していきたいと考えています。

坂田 ありがとうございます。協働を話題にしていますので、会場の皆さんからもご意見を伺いたいと思います。

会場(1) アザレア作業所メンバーの落合と申します。小牧市は財政豊かな都市です。その証拠に、文化、教育の面では他の市町村より優れたものがいっぱいあります。しかし、福祉に関しては他の市町より劣るものがいっぱいあります。なぜ、その差が出るのか。精神障害者に対しては、バスも何もない所に施設をつくり、通うのに大変苦労します。巡回バスを使ってもバス停までかなり歩く必要があります。ピーチバスでもそうです。運賃もかかります。

坂田 ありがとうございます。では、市長にお伺いします。

市長 今のお話は、アザレア作業所の事だと思います。実際の運営はNPO法人が行っています。以前はまちなかの借家で行っていました。施設から要望があり、借家では狭いし限界もあるので、市の方で土地を提供いただいて、施設を設けたいという要望があり、3年ほど前に完成しました。精神障害者の授産施設としては、小牧市以外ではそのような施設はないと思っています。施設の立地に関しては、いささか交通の便が悪いのではないかと言われますと、もっともなご意見だと思います。実は施設の整備に際しては、運営しているNPOの役員と再三協議し設置したので、市としてはこの場所で行ったと思っていました。しかし、改めて話を聞くと、交通の面に関しては巡回バスなどのルート設定など、時間がかかるかもしれませんが検討していきたいと考えています。

坂田 第6次総合計画でも市の現状の問題の洗い出しをやっていきます。行政の適切ではないやり方や遅すぎる対策、不十分なものなどを洗い出しています。社会的弱者についても様々な問題を取り上げ、課題として整理しています。ただ、そのためにも、声を寄せていただきたいと思います。あと1人どなたかご意見をいただければと思います。

会場(2) 井戸田です。今日はいろいろなお話をお聞きして、中学生のボランティアも我々

が考えているより相当やっていると思いました。我々もボランティア活動をやっていますが、若い人のボランティアがないのではないかと思っていました。今日の話聞いて、やっているとわかりました。若い子がやっていると小牧が良い方向に向かっていくと思いました。教育の面でも良い方向に向かっていくと思いました。だけど、誰が主導していくのが問題だと思います。誰が主導でやっていくのかというのをお聞きしたいと思います。

また、子どもについてですが、喫茶店にいくと子どもが暴れていたりします。我々が注意をすると、その親が何を言っているのかという顔をします。あるいは、「おじさんが言っているから止めなさい」と言われます。私は市長が言われるように親の教育が大事だと思います。今の親はもう少し子どもに向かっていく必要があると思います。あいさつも親がしないから子どももあいさつしないと思います。やはりPTAがもう少し何とかできないかだと思います。

坂田 親の問題であったり、大人の問題であったりということで、パネルディスカッションで答えは出していただいたと思いますが、小牧を良いまちにするために、社会的責任をどう取るかという問題でもあるわけです。それを念頭に置きながら、パネリストの皆さんから感想をお願いして終わりにしたいと思います。

稲垣 こどもまちづくり研究会の発表を聞いて、現実をよく把握した発表だったと思いました。今日、中学生と協働のシンポジウムに参加させてもらい、若いパワーをいただいたので、明日から地域の発展に努力したいと思います。今日はありがとうございました。

大橋 今日はいろいろな立場の人の意見を聞いて、共感する所が沢山ありました。特に3 あい事業は市内全体に広がるとよいと思いました。小牧をよくするために、いろいりな立場の人に役割があることがわかりました。僕たちの提案ですぐに実現できないかもしれませんが、次の総合計画で取り上げてもらえればよいと思います。小牧を更に住みやすく良いまちにするために更に沢山の人がまちづくりに参加できればよいと思います。

納 今日、大人と議論する最初で最後の体験でしたが、自分の考えを最後まで言えてよかったです。

若原 小牧の将来を真剣に考えることができよかったです。また、こどもまちづくり研究会だけでなく、シンポジウムに向けて準備してきた他の団体のことも知ることができてよかったです。3 あい事業は全然知らなかったのですが、とても勉強になりました。大人に対する期待やボランティアとして協力したいことも沢山できて、未来の小牧に対する思いが強くなってよかったです。

松田 機会をいただいてありがとうございます。第6次総合計画の中には、できるだけ多くの意見を吸い上げて、取り込んでいただければと思います。また、一つだけ、計画に入れて欲しいと思うのは、何をいつまでにどうするのかというのを明確にした総合計画にいただければ、市民もよく理解できると思います。今日は、ありがとうございました。

松浦 普段は事業経営をしている団体ですが、今日はいろいろな分野の方とお話できて、人づくり、会社づくり、そしてまちづくりは、全てリンクしていると思いました。我々企業経営には、人づくり、まちづくりの観点をどれくらい入れることができるのがこれからの事業経営になっていくと思いました。今日はありがとうございました。

河合 今日この体験をさせていただいて感謝しています。第6次総合計画の第一歩ということで、親の立場で話しかけていきたいと思いますので、これからもよろしくお願ひします。

岩田 今日、この機会にいろいろな意見を聞いてよかったです。僕が今日聞いていて思ったのは、小牧はいろいろな人たちがよくするためにこんなにも頑張っているのだと思いました。将来、いろいろな人たちから「小牧っていいよね」と言われるとよいと思いました。今日はありがとうございました。

平手 今日、様々な立場の意見を聞いてよかったです。ボランティアも行動以外にも、いろいろな方法があるとわかってよかったです。これからは小牧がより良いまちになるようにいろいろな人の協力を得て、沢山の意見が反映されるとよいと思います。今日はありがとうございました。

市長 今日、まちづくり研究会、こどもまちづくり研究会の研究成果を発表いただき、パネルディスカッションを長時間にわたり行い、いろいろな意見をいただきました。私どもも思いは皆さんと同じで、少しでも住みやすく、快適な生活ができるように仕事をしています。現実としてはそれほど思い通りにはなっていません。率直に意見をいただいて、目標に近づくにはどうしたらよいのか、こういう姿勢で取り組んでいきたいと思います。特に中学生の皆さん、市の情報はホームページに全てありますので、それぞれの教室で授業の材料として、ごみ箱の設置やレジ袋の問題など、立派な授業になると思います。将来、自分たちが日本を背負っていくので、今からそのようなことをやっていくのもよいと思います。今日はありがとうございました。

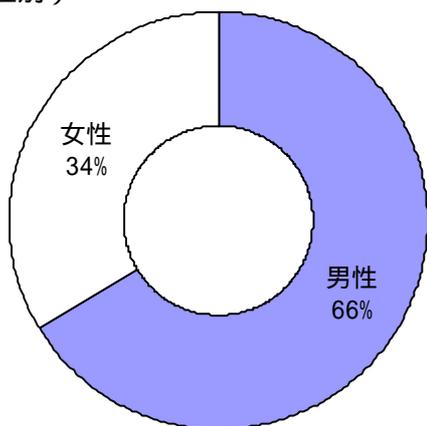
坂田 これからの小牧のまちづくりの指針となります第6次小牧市総合計画は、8月の末に中間答申をします。中間答申が出た段階で9月に市民の皆さんから、方針について意見を伺う機会をつくり、それを総合計画に反映させる予定です。どうか積極的なご意見を寄せていただきたいと思います。今日のパネルディスカッションは、話題を1つに絞りにくく、十分なコーディネートができなかったことを残念に思いますが、時間になりましたのでこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

3 アンケート結果

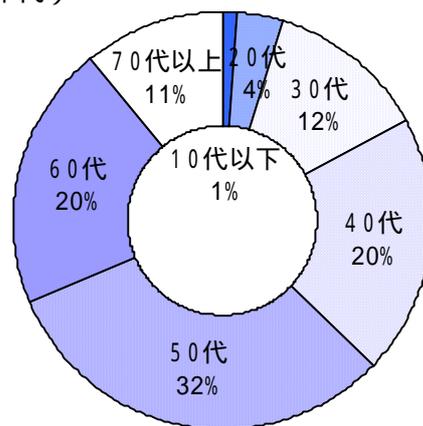
回答者

回答者の総数は83人で、その内訳は、性別では「男性」が55人(66%)、「女性」が28人(34%)、年代では「50代」が26人(32%)で最も多く、以下「40代」と「60代」が17人(20%)、「30代」が10人(12%)、「70代以上」が9人(11%)、「20代」が3人(4%)、「10代以下」が1人(1%)となっています。

(性別)



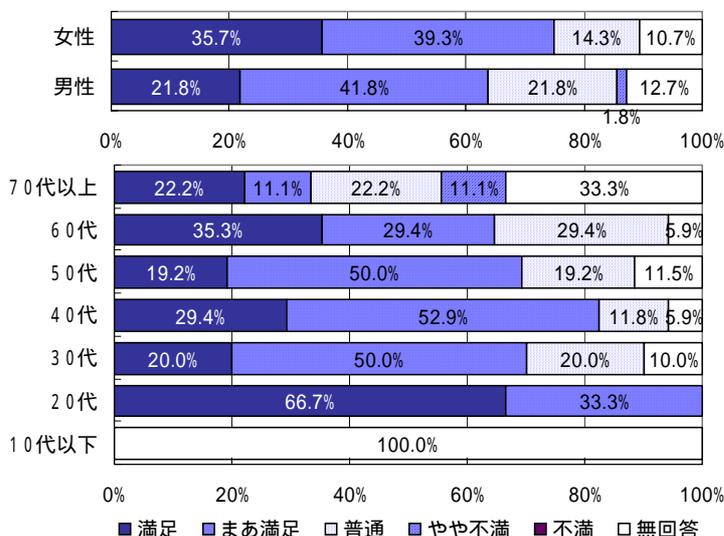
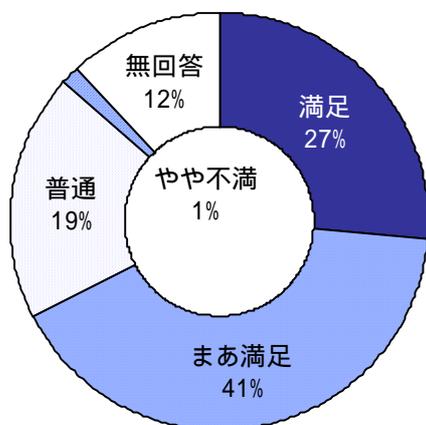
(年代)



シンポジウムに対する評価

「満足」が22人(27%)、「まあ満足」が34人(41%)であり、あわせて57人(68%)が満足と評価しています。

性別では、男性で64%、女性で75%の人が満足と評価しています。年代別では、満足と評価した人の割合は20代で100%となっており、40代では82%となっています。10代や70代以上では無回答が多く割合が低くなっています。



自由意見

シンポジウムの感想や小牧市のまちづくりについて、63人の方から意見をいただきました。

<シンポジウムの感想>

非常に良いイベントだと思います。特に子どもまちづくり研究会はとてもおもしろく続けて行って欲しいと思います。

素晴らしいシンポジウムでした。立派な参画を得たのですから、これをいかに総合計画に反映できるかは大きな課題であります。従来型の計画に組み込み、反映させたというのではない、参画からの計画としてはどうでしょうか？ いずれにせよ行政計画は別に実施計画をつくるのですから。そうした面からみると本研究会の成果が十分であったか、不足分を補いつつ、参画型総合計画となるよう祈念します。

参加者が子ども（中学生）の活動や区やNPO、企業の活動を理解することができた。このような会に参加しないと、自分たちのエリアのことしかわからず、一方的な思い込みでものを言うことが多いと思う。参加者の意見にも、同じことを言っている中学生やパネリストもいた。是非、多くの市民の参加とこのような再認識できる情報を流し、伝えていって欲しい。自分もいろいろなところに参加し、人と話し、自分の認識を深めたいと思う。市民一人一人が自分の義務を果たすことが大切だと思った。良い会であった。中学生がこれから成長する上でとても良い機会であったと思う。是非、いろいろな人がシャッフルした場を設け、いろいろな意見を出し合って、方向付けできる機会を設け、参加できる場を設けて欲しい。

子どもさんの意見等いろいろなお話が聞け、大変勉強になった。

非常に勉強になりました。あっという間の3時間で大変いいシンポジウムでした。もっと市民や市職員に参加していただければ、より良かったと思います。このシンポジウムの開催にあたり、準備をされた関係者の方は本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。有意義なお話をたくさん聞けて、大変うれしく思いました。今日はいい日でした。私は本庄学区に住んでいますが、大人のボランティアはずいぶん盛んな地区だと思っています。はじめて参加してみているようなお話を聞いてとてもよくわかり参考にさせていただきます。

「市民まちづくり研究会」の一員でした。「子どもまちづくり研究会」の発表に喜びを感じました。それぞれのグループともすばらしい研究の成果が発表されていたと思います。60歳の私ができる小牧市のまちづくりに、ボランティアとして今後参加していこうと思っています。

子供達の率直な意見を聞く機会が持てた事、パネルディスカッションがとても内容が充実していて、大変有意義でした。自分も一市民として小さな事からでも、自分のできる事を始めてみたいと思いました。自然が豊かで中心市街地の人々が集い、世代を超えた交流の図れる、そんな小牧市になっていったらと思います。ありがとうございました。

いろいろな意見が聞けておもしろかった。文句を言う前に行動を起こし、変えていくべきです。交通網のことは思っていて、早く道のはしに歩行者の安心して歩ける道がほしい。用水路や側溝に早くふたをしてほしい。

中学生の子たちの発表はとても素晴らしく驚いた。坂田教授の言われたとおり「子ども」

と付けるのは違和感を感じたほどでした。研究会の提案内容やこのシンポジウムを受けて、どのような総合計画が策定されるのか楽しみです。

中学生の環境とボランティアに対する意識の高さに驚きました。

3回の会のみで本当によくまとめられ、良い意見が出ていると思いました。子どもまちづくり研究会の提案は、とても具体的でわかりやすかった。大人が難しく提案するより、市民には受け入れやすいかもしれません。

シンポジウムはもっと子どもたちの意見を引き出して欲しかった。大人のパネリストの意見が多い、長すぎ。子どもたち中心のシンポジウムだと思っていたのでがっかりです。

シンポジウムはあらかじめシナリオができていて、子どもたちはシンポジウムの進行に応じた意見が述べにくくなってきます。子どもの力を信じて、もう少し子どもに意見を求めてもよかったのではないかと思います。

親の役割と責任も重要だし、親子を支える地域力も必要だと思いました。

パネルディスカッションは、パネリストが予め用意しておいた原稿を読んでいた。テーマについて討論がなかった。協働についてどうしたいのか、何をしたいのか伝わってこなかった。先進地の協働の取組みがどのようなものか、紹介してもらった方がよかった。

中学生の参加、発表は大変参考になりました。特に、交通・環境問題の指摘は行政も検討の余地あり。各分野からの現状・提言はそれぞれに意味のあるものが多かった。

パネルディスカッションのパネラーに5人の子供が参加されたのは大変よかった。大人の意見よりも子供の意見の方が素直な気持ちがあった。

こども研究会の内容がよかった。

5グループに分かれた中学生の発表、内容に関しては賛否はあるが、どのグループも堂々としたものであった。

短い時間の中での発表のため、より具体的な表現は無理だったかもしれないが、パワーポイントの使用の中、町中の具体的な映像があると有難かったと思います。

まちづくりシンポジウムが建設的な意見を提出したので行政が早く実行するようにしてもらいたい。最終的に行政が判断して決めると思うので、自分もメンバーとしてやってきたが、到底実現しそうな無い提案が有る様感じた。

こどもまちづくり研究会の発表はたいへん良かった。

大人と子供のまちづくり研究会の提案・発表が類似していることは、市民全体が同じようなことを感じていると思われる。対策・対応が必要であり、急ぐ必要があると思われます。がんばって下さい。

子供達の発表が子供達の市・行政への思いにつながり、よかったと思います。子供達全員が今回の参加者のようであつたら良いですね。

子供達の活動がこんなに一生懸命でびっくりしました。大人も老人ももっとこのシンポジウムのある事を知っていただきます。企業も会社も一緒に取り組むことが大きな問題です。今日のこのシンポジウムに参加して、改めて自治会活動に力を入れたいと思いました。

小牧のまちづくりということで、多くの人たちの意見が聞けたことはとても有益だった。

特にこどもまちづくり研究会の提案は5年後には、大人になる子どもたちの提案であり、興味があった。子どもたちの興味としては特に環境に力が入っているということは、今後

の小牧の進むべき方向として参考になるのではないかと。残念だったことは、こどもまちづくり研究会が2回しか活動がなかったようですが、今後もこの活動を続けて、研究を深めて欲しい。学校ごとの地域に根ざした研究活動をしてもらっても面白いのではないかと。市長の自分の意見をきちっと述べる姿勢や深い見識は見習わなくてはならないと思った。参加する人が少ない。やはり関心のある人は少ないと感じた。こどもの提案で、できることは実現させれば子供が社会への信頼も増すと思う。

これからの「こまき町づくり」に大人だけでなく子ども（中学生）も参画できたことがよかったと思います。将来を担う子どもの意見を取り入れたり、子どもの視野を広め、考える力を養う一助になっていると思います。

中学生の活動には感嘆した。今回の活動で得られた経験を大切にしてもらいたい。

今後も協働に力を入れていくべきだと思う。中学生の意見をこれからも反映させる機会をつくるべきだと思う。

こどもまちづくり研究会も子供達の発表に接して、小牧の子供達の未来にパワーを感じた。しっかりと意見が言える中学生に感心しました。

家庭教育が大切という市長の意見に同感です。

坂田新氏の進行が上手でとてもわかりやすかった。

まちづくり研究会、そしてこどもまちづくり研究会の発表、とても地域密着の意見が出ていてよかったと思います。その中で、主婦の方たちの（私のまわりのですが）意見をひとつ。ピーチライナーがなくなったあと、あのまま、どうなりますか？ ガソリン値上げの中、サイクリングロードにしてほしい。切実な願いです。信号もなく安全安心のあのピーチライナーの道を使えるように考えていただけたらと思っています。市のスタッフの皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

子どもの発表が良かった。

パネルディスカッションのテーマ「協働でひろがる新たなまちづくり」とは、少し方向性がずれていた気がする。各セクターの代表ということもあり、それぞれの主張（PR）が強すぎた感がある。これからのまちづくりは、それぞれがどんな役割で、どんな責務を持って取り組むべきか？ コーディネーターがその辺りを意識してコーディネートしていただきたかった。（例 具体的な地域課題にスポットを当てて・・・）

こどもまちづくり研究会については、子どものうちからまちづくりに対する意識啓発の仕掛けとなって大変有意義・有益かと思われる。総合計画が完成したのちも継続的に開催していくべき。

自分が子供の時にもこどもまちづくり研究会があったら参加していたと思います（小牧で生まれ、小牧で育ち、今も小牧で生活しているので）。今日のパネルディスカッションの内容は、中学生にとって少し難しいのではとわれました。

これからもこのような機会があればとても良いと思います。特に、子供と大人が討論し合う場というのはとても大切だと思ったからです。

中学生の意見を聞いた“まちづくりシンポジウム”はとてもよかったと思います。参加した中学生も“小牧市”を考えるいい機会になったと思います。聞いていても新鮮な意見に感心しました。パネルディスカッションは、少し時間が長いのではないかと感じました。

もう少し中学生を中心とした討論になるとよかったのではないのでしょうか。1つでも2つでも実現へ向けてのものがあるとうれしいので、よい機会るとき、報告があれば今日やったことの手ごたえがあるのではないかと思われました。また、ぜひ続けてください。

シンポジウム前半、まちづくり研究会は、時間が短く駆け足的だった。こどもまちづくり研究会は、中学生の視点（特に公共交通やごみ問題について）が新鮮だった。シンポジウム後半、パネルディスカッションは、それぞれの立場での各パネラーの発言が大部分を占め、パネラー間で話し合う時間が少なかった。シンポジウム全般、300席ある会場でも空席が目立ったのは、総合計画に対する認知度の低さ（市民アンケートで約13%）を表していた。

テーマ的にある程度絞った方法もあるのでは？

今回の発表を聞き、さらに深く議論がされるとより良いものが生まれてくるだろうと思います。現在のグループにて更に先に進むと共に、新たなメンバーを含め、いろいろな角度からものを見て進化して欲しいです。その会合を周知し、新たな意見が入ってこれる機会があればなおよいと思います。今後の更なる発展を楽しみにしています。

こどもまちづくり研究会の発表は解決策が具体的で良かった。

想像以上に若い中学生達のしっかりとした町作りの長所、短所が良く発表されていたと思います。これからもこういう発表会が開かれる事、大変良い事だと思います。

こどもまちづくり研究会の存在は意義あるものと感ずる。坂田先生が言ってみえたように「こども」という言葉は不要である（視点はほぼ大人と同じ）。自分たちがずっと住んでいく街をこどもの頃から意識をもってみていくことにより、自分たちで街を大切にしていこうという面が育まれる。大人になってから街づくりを考える（考えさせられる）のではなく、小さい子供の頃からしっかりとした意識を持たせることが大切と感じた。ぜひ、小学校、中学校、高校などでも授業の一環として「小牧の街づくり」を考える時間をとっていただきたい。小牧をよくしたいなら“愛街心（愛牧心）”をみんなが持つべき（みんなに持たせるべき）。街づくりみたいなものは、大人が難しい言葉を並べて書類をつくるより、中学生くらいの視点で考えた言葉でまとめた方が理解しやすく、市民になじみやすいかも。子供の意見、素直なものが多く、身近に感じられるものばかりであった。間近に大人の仲間入りする子供たちの意見は是非総合計画に反映させてほしい。

多くの方が審議をされていることが分かりました。その提案について行政は答え、実施するならば具体的なプロセスを作成するべきだと感じています。今日は市民、企業、団体からの提案、次回は行政からの回答とつなげていただきたいと思います。

第6次総合計画策定に際し、広く市民各層より参加者募集し8回にわたり意見交換、子ども達の参加による課題抽出や対策の立案は共に有意義でした。少しでも策定にあたり反映させることを期待する。又、今後とも市民に関心を持って頂くことを増やし、参加者を増大、出席者を多くする。「協働でひろがる新たなまちづくり」パネルディスカッションについてセレモニーの時間が長い。集まった人達は良く知っている人が多い、しらけてしまう。本格的な協働まちづくりについて、意見交換を知りたい。子どもの参加者は良かったが、生徒会的に横展するとよいと思う。家庭教育の充実は地域力の向上が大切。

小牧市の将来像が見えない（第6次総合計画）。今どんな問題があって、どう取り組んでい

くのか？（予算） 地方都市でいる～活性化に成功している事例が新聞等で多々伝えられているが（ケーススタディ） 参考になったケースはあるか。小牧市はここが違う（くらしやすさ） 市の施設へ自転車で安全に行ける。今回の会への参加者が非常に少なくさびしい（PR不足ではないか） 小牧市は財政が恵まれているのに、あまり実感が持てない。

子供と大人が一緒になって、まちづくりについて考えることは、とても大切なことであり、必要なことだと思うので、こういった会を持つのは、とてもよいことだと思います。いろいろなお立場の方のお話を聞かせていただき、より小牧について考えるいい機会になりました。これから、小牧がどうしていくとよりよくなるのか、考えながら生活していこうと改めて思いました。自分にできることから始めていきたいと思いました。

中学生参加のシンポジウムでありましたが、なかなか素直な意見が多く出て、いろいろな分野で我々大人の考えとは違う先進的な（直ちに出来るかどうかはわからないが）気持ちを持っているのに驚かせられました。現在の中学生は、ボランティア精神が旺盛であると考えた。私も中学生と同感であります。小学生の高学年からボランティア意識を向上できる教育も必要ではないかと思う。交通の不便の問題が中学生からも多く出ましたが、我々大人も交通に対する問題は一緒であるような気がする。

子供と大人との協働シンポジウムは新鮮。まちづくりシンポについて、子供には大きな経験なと思う。

なかなか大人が考える以上の内容が多く、びっくり致しました。せっかく考えた課題なので、ぜひ大人も力を合わせて協力していきたいと思っています。一人一人が小さな事でも力を合わせて実現してみたいと思っています。ぜひ頑張ってください。今日、良い話を聞かせて頂きありがとうございました。中学生の皆さん頑張ってください。

<今後の小牧市のまちづくりについて>

子供たちが一生懸命考えたことを大人が素直に受け止め、少しでも実現していくことが次世代を育てることになると思います。あいさつをする、ごみを拾うなど、身近なところから始めていこうと思いました。

ごみ分別になっていまだにごみの山の所があります。マンションの外国人の人が多い所。区長さん、地区の会長さんの協力で地区の方々の共に協力してきれいにしたい。

ピーチライナーの線路をサイクリングロードなどに利用する事はとても良い事だと思います。安心して小牧駅から桃花台まで行けますし、お年寄りの方も子供も散歩しても良いですし。

小牧市はとても良い所だと思いますが、もう少しレジャー施設があると良いですね。

小牧市全体を他市から見た視点が必要であり、人口や産業を小牧に引き込む経営戦略が必須である。（魅力ある小牧にする為に）

幅広い情報、意見の聴取の観点より、女性や外国人、市外の人に参加してもらったらどうか。

ごみ出しの困難な人への中学生のボランティアなどがあるといい。図書館の本館の利用しやすさが望まれる。小中学校の運動場の芝生化を望む。

小牧市の大きな課題は、交通の利便性を高める、小牧駅周辺の活性化の2点であると思う。

中学生の発想の中に、ボランティア、募金、あいさつ、と人に訴える視点があったところが光明と思いました。具体的な取組みを市が行政が考えていただきたい。

交通網のピーチライナーの再利用は、時に一考していただきたい。道路の利用方法に対してのいろんな案は面白い。

ITを利用した防犯活動が重要では！！

今の社会で行政のみが市民サービスをするのではなく、市民の人々が小牧に住み続けるために、市民のやりたいことを市が支援していただける。市民の権利を「まちづくり」に発揮しやすいようになる。

人々が集まれば新しい文化が生まれる。人が動ける環境づくりが必要。

コミュニティバスは以前は公共施設のみで停車していたのが、くらし応援のスーパー、娯楽施設にも停車するようになった。車社会 - 公共交通、自転車、歩く・・・そんな生活を応援したい。

人づくり、人を大切にできる市民を増やす。住みやすいまちづくり。どうしたらいいのか？いつもここで考えがとまってしまいます。

ごみ箱を設置しない方針は良いと思う。「たばこのポイ捨て」に加え、「犬のふん」についても罰金をとるようにしてほしい。(飼い主のマナーが悪すぎ)

タバコの吸殻のごみが多いことで禁煙地区を作ろうという市長の話がありましたが、タバコを吸う人にはタスポの普及より携帯灰皿を持つことを普及させるべきだと思います。

ごみが多い ごみ箱を増やすではなく、ごみ箱がない ごみを持ち帰るという考えを全ての人々が当然のように持てるような社会がいいですね。

があるから小牧へ行こう！とか、なら小牧だね！と言われる目玉があるといい。

小牧は登校しない児童、生徒の数が全国レベルで多いと聞きましたが、それはとても情けない現実だと思うので、地域・学校すべてが協力して登校率100%になって欲しい。

田県神社の祭りは全国的に有名ですが、「犬山にある」と思われていることが多いのは残念。

田県神社前駅を整備して、小牧のアピールをしてみてもいい？

保育園と老人の集まりを同じ場所にし、おもいやりを小さなうちから育てるとよいと思います。

某病院で働いています。小牧市は生活保護の基準があまいような気がします。一度、今まで受けている方も再チェックしていただきたいと思います。

ごみのこと、足が痛い家前におけると良い。市民会館のトイレは洋式を多く。公園の近くに家があるから葉っぱの整理がたいへんです。私の家はごみの山、秋がくるのが淋しい。

子供から高齢者まで市民全員がまちづくりに取り組むという啓蒙活動が必要だと思う。団塊の世代を期待してみえるという意見もありましたが、経済的余裕のある人はそんなにみえません。団塊の世代には迷惑な意見だという人もいます。「人に迷惑をかけないという社会規範意識」が薄れてると思います。

巡回バスを三菱工場から池之内行きをつくってください。障害者も1人の小牧市民であり、

健常者と同じように町に出て活動できる町をつくりたいと思います。小牧市は財政豊かな町です。文化、教養、スポーツは他の市町村には負けない立派な施設が多いが、障害者施設については他の市町村より劣る施設ばかりです。なぜ福祉に予算が出ないのか。障害者や高齢者が自由に町に出てこれる町をつくってください。スポーツ施設を1つつくるのをやめて、これを福祉にまわせば、立派な施設が多くできます。精神障害者施設アザレア本庄プラザには、バスが出ていない。巡回バスのバス停から歩いて20分かかります。ピーチバスだと料金を払っても歩いて18分かかります。

プールを広くしてほしい。公園を広くしてほしい。公園をふやしてほしい。米野小学校のプールを広くしてほしい。サイクリングロードを作してほしい。

私は子供の頃から小牧に住んでいますが、あまり小牧の歴史について知りません。最近、小牧の歴史について強く関心を持つようになったので、そういうことを知るきっかけになるような行事や催しを希望します。

少子化、高齢化、安全・安心のまちづくりは、地域力、125区の区のコミュニティの充実、復活が求められている。役員のなり手不足等、厳しい環境の中で、どのように復活、充実させるのか、研究が必要である。話のあったように、団塊の世代の参加への働きかけが必要であると思います。

巡回バス、市中心街に向け運行されているが、横のつながりがないようです。例、東京山手線に乗ればいちいち市中心に出て乗り換えて目的地に行かなくてもよい。